秋田県埋蔵文化財センター年報

36

平成29年度

2018・6

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の
「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年８月発見、高さ７㎝、凝灰岩。

序

秋田県教育委員会行政組織規則にある埋蔵文化財センターの所掌事務は次のとおりです。

一　埋蔵文化財の調査研究に関すること

二　出土品の整理及び収蔵に関すること

三　埋蔵文化財に関する専門的・技術的な事項の指導に関すること

四　埋蔵文化財保護思想の普及に関すること

一については、緊急発掘調査と確認調査を合わせても、所謂現場での仕事は少ない年でありました。それでも、潟上市の手の上遺跡では古代から中世にかけての豊川旧河道と護岸遺構や船着き場かと思われる跡等が見つかりました。由利本荘市の堤沢山遺跡では炭窯跡１基が見つかり、中世の製鉄関連遺跡を補完する情報が付加されました。また、研究紀要第32号を発行し論考３、研究ノート２、資料集成２、活用事業事例１を世に問うこともできました。

二については、整理作業に従事する非常勤職員が発掘調査量に比例して減少する中、担当職員との連携よく報告書刊行に向けて順調に作業を進めました。また、施設整備の点では、ここ数年応急措置で対応してきた男鹿収蔵庫の雨漏りを本格的な屋根修繕工事で解消することができました。

三については、能代市の檜山城跡、横手市の一本杉遺跡、美郷町の鎧ヶ崎城跡等、市町村教育委員会が調査主体となっている発掘現場に当センター職員が立ち会ったほか、仙北市の潟前遺跡や黒倉遺跡の遺物を移設展示した田沢湖駅舎内の「森と遺跡の展示室」のオープンにも協力することができました。

四については、多くの普及事業において想定した来場者数を上回り、質問の挙手が途切れない意欲的な場面が見られました。特に９月の講演会「アイヌと蝦夷」や３月の報告会は大入り満員でした。さらには、小・中・高校及び特別支援学校からの出前授業の依頼が大幅増となり、当センターでの授業実施を合わせた児童生徒のセカンドスクール的利用者数は過去最高を記録しました。

新年度は業務全般についてさらに工夫改善を図り、県民の皆様のいっそうの御理解を得ていきたいと考えております。

本書を御覧いただき、御指導、御鞭撻をいただければ幸いです。

平成30年３月

秋田県埋蔵文化財センター
所　長　櫻　田　博　憲

目　　次

序
目次
Ⅰ　沿革 …… 1
Ⅱ　組織・施設 …… 1
Ⅲ　平成29年度の歩み …… 2
Ⅳ　事業の概要
　1　発掘調査 …… 4
　2　確認調査 …… 4
　3　埋蔵文化財発掘調査
　　（1）平成29年度県内発掘調査遺跡一覧表 …… 5
　　（2）発掘調査概要
　　堤沢山遺跡 …… 6
　　手の上遺跡 …… 8
　4　刊行物一覧 …… 10
　5　活用・普及事業
　　（1）秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会 …… 11
　　（2）遺跡見学会 …… 12
　　（3）セカンドスクール的利用 …… 12
　　①利用状況 …… 13
　　②活動の具体例 …… 13
　　③職場体験・インターンシップ …… 13
　　④出前授業 …… 13
　　⑤平成29年度の成果 …… 13
　　（4）企画展 …… 14
　　（5）講演会 …… 14
　　（6）あきた埋文考古学セミナー …… 15
　　（7）あきた埋文出張展示 …… 16
　　（8）古代発見！バスツアー …… 18
　　（9）共催・機関連携等による普及事業
　　①農業科学館まつり …… 19
　　②土器に生ける秋の草花展 …… 20
　　③あきた県庁出前講座 …… 20
　　④払田柵跡古代体験フェス2017 …… 20
　　⑤あきたスマートカレッジ連携講座　「発掘！考古ゼミ」 …… 21
　　⑥湯沢市との連携展示 …… 21
　　⑦能代市おもしろ塾との連携展示 …… 21
　　(10) 所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績 …… 22
　　(11) センター施設の開放と展示 …… 22
　　(12) 図書整理・図書一般公開 …… 22
　　(13) 講演・研究論文等 …… 23
　6　運営協議会 …… 23
Ⅴ　平成29年度研修事業 …… 28
Ⅵ　職員名簿 …… 30
奥付

Ⅰ　沿革

昭和55年２月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年８月31日	センター、第１収蔵庫完成
昭和56年10月１日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月２日	落成記念式典挙行
平成５年１月	第２収蔵庫完成
平成10年４月２日	鷹巣町に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年４月４日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年４月２日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の３課体制となる
平成13年６月20日	秋田県甘粛省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年３月２日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県甘粛省文化交流事業磨嘴子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年４月１日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年３月31日	北調査課、中央調査課閉課
平成20年４月１日	機構改革により総務班・調査班・資料管理活用班・中央調査班の４班体制となる。
平成22年７月１日	秋田市に中央調査班移転
平成24年３月６日	秋田県埋蔵文化財センター設立30周年記念式典挙行
平成28年９月４日	秋田県埋蔵文化財センター設立35周年記念講演会開催

Ⅱ　組織・施設

1　組　織

所　長
├──── 埋蔵文化財センター運営協議会
副所長
├ 総務班
├ 調査班
├ 資料管理活用班
└ 中央調査班

2　施設の概要

本所（総務班・調査班・資料管理活用班）

所在地	〒014－0802　秋田県大仙市払田字牛嶋20		
	TEL　0187-69-3331　FAX　0187-69-3330		
	敷地面積		6,962.000㎡
	本所建物	鉄筋コンクリート２階建	1,527.304㎡
	第１収蔵庫	鉄骨造平屋建	360.000㎡
	第２収蔵庫	鉄骨造平屋建	297.680㎡
	電気・ポンプ室	平屋建	59.780㎡

中央調査班

所在地	〒010－1621　秋田県秋田市新屋栗田町11－1		
	TEL018-893-3901　FAX　018-893-3899		
	建物	鉄筋コンクリート平屋建	2,141.000㎡

男鹿収蔵庫

所在地	〒010－0502　秋田県男鹿市船川港比詰字餅ヶ沢200		
	敷地面積		55,521.000㎡
	建物	鉄筋コンクリート３階建	7,524.360㎡

Ⅲ　平成29年度の歩み

【平成29年】

４月３日　新任式（本所、中央調査班）
　４日　臨時的任用職員・嘱託非常勤職員辞令交付式（本所、中央調査班）
　７日　第１回全体職員会（本所）
　８日　本所展示室常設展リニューアル、H29あきた埋文収蔵資料展開幕（～５／21）
　11日　平成28年度秋田県内発掘調査成果展閉幕（県生涯学習センター、３／14～）
　19日　平成29年度市町村文化財保護行政主管課長会議（県生涯学習センター）
　　第１回所内研修会「福島県相双地域の古代製鉄技術」（本所）
　20日　由利本荘市代官小路遺跡試掘調査立ち会い
　27日　交通安全講話（中央調査班）
　28日　第１回連絡会・本所職員会（本所）、中央調査班職員会（中央調査班）
５月18日　交通安全講話（本所）
　26日　第２回連絡会・本所職員会（本所）、中央調査班職員会（中央調査班）
　29日　潟上市手の上遺跡調査開始（～７／21）
６月１日　全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会（静岡県、～６／２）
　３日　企画展『米代川流域の考古学』第Ⅰ期「米代川流域の縄文文化」開幕（～９／10）
　14日　第１回運営協議会（本所）
　15日　避難訓練・消防講習（本所）
　23日　第３回連絡会・本所職員会（本所）、中央調査班職員会（中央調査班）
　27日　平成29年度市町村文化財保護行政担当者会議（県総合庁舎）
７月１日　手の上遺跡見学会
　６日　第１回あきた埋文出張展示『洲崎遺跡と脇本城跡～中世秋田を大きく変えた二つの遺跡～』（県立図書館、～８／16）
　９日　『平成29年度農業科学館まつり』に「縄文時代の遊び・生活体験」として参加（県立農業科学館）
　11日　湯沢市との連携展示『湯沢雄勝の縄文文化－堀ノ内遺跡－』（湯沢市雄勝郡会議事堂記念館、～７／30）
　15日　あきた県庁出前講座「出土品から学ぶ秋田の歴史」（北秋田市民ふれあいプラザ「コムコム」）
　18日　由利本荘市堤沢山遺跡調査開始（～９／27）
　22日　第１回あきた埋文考古学セミナー『ここまで変わった？！秋田の中世～八郎潟・男鹿周辺の中世遺跡が語ること～』（県立図書館）
　28日　第４回連絡会、第２回全体職員会（本所）
　　第１回職員技術研修会（払田柵跡第151次調査現場）
　　払田柵跡古代体験フェス2017（主催：大仙市教育委員会）
８月25日　第５回連絡会・本所職員会（本所）、中央調査班職員会（中央調査班）
９月３日　講演会『アイヌと蝦夷』（県生涯学習センター）
　５日　第２回あきた埋文出張展示『出土品が語る鳥海山麓の縄文文化～にかほと遊佐～』（仁賀保公民館、～10／22）
　16日　第２回あきた埋文考古学セミナー『出土品が語る鳥海山麓の縄文文化～にかほと遊佐～』（仁賀保公民館）

９月19日　由利本荘市才ノ神遺跡確認調査（～９／29）
22日　第６回連絡会・本所職員会（本所）、中央調査班職員会（中央調査班）
23日　企画展『米代川流域の考古学』第Ⅱ期「米代川流域の古代社会」開幕（～ H30. ２／25）
26日　古代発見！バスツアー 第１回『県北の遺跡・文化財探訪コース』
29日　古代発見！バスツアー 第２回『県北の遺跡・文化財探訪コース』
30日　第３回あきた埋文出張展示『米代川流域の縄文文化 with 大館の高校生による発掘活動』（大館郷土博物館、～ 11 ／ 26）
10月３日　古代発見！バスツアー 第３回『鳥海山麓の遺跡・文化財探訪コース』
５日　全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブッロク会議（盛岡市）
６日　古代発見！バスツアー 第４回『鳥海山麓の遺跡・文化財探訪コース』
７日　土器に生ける秋の草花展（県農業科学館、～ 10 ／ 22）
12日　第２回所内研修会「石器の石材はおもしろい！－ひとの動きがみえる秋田の石器－」（本所）
19日　全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第30回研修会（青森県観光物産館他、～ 10 ／ 20）
25日　にかほ市上岩台遺跡確認調査（～ 11 ／７）
26日　第７回連絡会・本所職員会（本所）、中央調査班職員会（中央調査班）
27日　第２回職員技術研修会「木製遺物の取り扱いについて」（中央調査班、秋田城跡歴史資料館）
28日　第３回あきた埋文考古学セミナー『米代川流域の縄文文化 with 大館の高校生による発掘活動』（大館郷土博物館）
11月１日　大館市片貝家ノ下遺跡確認調査(レーダー探査、～ 11 ／２)
17日　あきたスマートカレッジ『発掘！考古ゼミ』第１回「米代川流域の埋没家屋」（県生涯学習センター）
22日　第８回連絡会・第３回全体職員会（本所）、中央調査班職員会（中央調査班）
24日　あきたスマートカレッジ『発掘！考古ゼミ』第２回「払田柵を設計する－『九章算術』との関係－」（県生涯学習センター）
12月１日　あきたスマートカレッジ『発掘！考古ゼミ』第３回「埋蔵文化財の発見と発掘調査」（県生涯学習センター）
20日　交通安全講話（中央調査班）
22日　第９回連絡会・本所職員会（本所）、中央調査班職員会（中央調査班）

【平成30年】

１月23日　避難訓練（中央調査班）
26日　第10回連絡会・本所職員会（本所）
２月１日　中央調査班職員会（中央調査班）
８日　第２回運営協議会（本所）
23日　第11回連絡会・本所職員会（本所）、中央調査班職員会（中央調査班）
３月１日　能代市おもしろ塾との連携展示（能代市文化会館、～３／２）
11日　平成29年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会（県生涯学習センター）
13日　平成29年度秋田県内遺跡発掘調査成果展（県生涯学習センター、～４／８）
19日　平成29年度市町村埋蔵文化財担当職員連絡会（県庁第二庁舎）
23日　第12回連絡会・第３回全体職員会（本所）
29日　離任式（本所、中央調査班）

Ⅳ　事業の概要

1　発掘調査

平成29年度に秋田県埋蔵文化財センターが行った各事業別の発掘調査は以下のとおりである。

国土交通省関係

○日本海沿岸東北自動車道（本荘～岩城）付加車線工事：堤沢山遺跡

秋田県建設交通部関係

○広域河川改修工事(豊川)事業：手の上遺跡

2　確認調査

	事業名	遺跡名・所在地	調査期間	調査担当
1	河川改修工事（芋川）	才ノ神遺跡 （由利本荘市）	９月19日～ ９月29日	吉川耕太郎 加藤　朋夏 冨樫　那美
2	国道７号遊佐象潟道路建設事業	上岩台遺跡 （にかほ市）	10月25日～ 11月７日	赤星　純平 巴　　亜子 安田　　創
3	大館工業団地開発事業	片貝家ノ下遺跡 （大館市）	11月１・２日	村上　義直 小山　美紀
4	県市連携文化施設整備事業	久保田城跡 （秋田市）	11月13日～ 11月16日 ２月５日～ ２月８日	磯村　　亨 村上　義直

3　埋蔵文化財発掘調査

（1）平成29年度県内発掘調査遺跡一覧表

No.	遺　跡　名	所　在　地	調査期間	調査面積（㎡）	調査主体者	事業名等	主な時代：性格
1	大館城跡	大館市字中城	5/17～11/30	743	大　館　市教育委員会	大館市本庁舎建設事業	近世：城館跡
2	片貝家ノ下遺跡	大館市比内町片貝字家ノ下	10/30～11/ 2	906	秋　田　県教育委員会	地中レーダー探査	平安：集落跡・水田跡
3	家の上遺跡	北秋田市阿仁吉田字家の上	9/11～9/22	200	北秋田市教育委員会	東北電力鉄塔建設事業	縄文：集落跡
4	大沢Ⅰ遺跡	能代市二ツ井町麻生字大沢	5/23～6/13	403	能　代　市教育委員会	ほ場整備事業	縄文：集落跡
5	大沢Ⅱ遺跡	能代市二ツ井町麻生字大沢	6/14～7/21	1,036	能　代　市教育委員会	ほ場整備事業	縄文：集落跡
6	史跡檜山安東氏城館（檜山城跡）	能代市檜山字古城、大間木	6/12～10/13	131	能　代　市教育委員会	学術調査	中世：城館跡
7	**手の上遺跡**	潟上市昭和豊川船橋字手の上	5/29～7/21	720	秋　田　県教育委員会	広域河川改修工事（豊川）	平安：河川跡 近世：道路跡
8	史跡秋田城跡（第108次）	秋田市寺内焼山	5/ 9～9/20	534	秋　田　市	学術調査	奈良・平安：城柵官衙跡
9	史跡秋田城跡（第109次）	秋田市寺内焼山	9/20～10/ 6	41	秋　田　市	学術調査	奈良・平安：城柵官衙跡
10	史跡秋田城跡（第110次）	秋田市寺内焼山、大畑	10/11～10/31	44	秋　田　市	学術調査	奈良・平安：城柵官衙跡
11	才ノ神遺跡	由利本荘市徳沢字才ノ神	6/19～8/ 4	466	由利本荘市教育委員会	由利本荘消防署大内分署建設事業	縄文：集落跡
12	横山遺跡	由利本荘市福山字居屋敷	5/ 7～5/22	150	由理柵・駅家研究会	由理柵・駅家関連遺跡確認調査	平安：集落跡・水田跡
13	**堤沢山遺跡**	由利本荘市川口字大学堤沢山	7/18～9/27	300	秋　田　県教育委員会	日本海沿岸東北自動車道（本荘～岩城）付加車線工事	中世：生産遺跡
14	台山遺跡	由利本荘市東由利老方字台山	6/ 5～6/24	70	東由利の遺跡を発掘調査する会	台山遺跡の発掘調査研修事業	縄文：集落跡
15	史跡払田柵跡（第151次）	大仙市払田字仲谷地	6/ 5～8/23	189	秋　田　県教育委員会	学術調査	平安：城柵官衙跡
16	史跡払田柵跡（美郷町第２次）	美郷町本堂城回字百目木	5/10～5/12	7	美　郷　町教育委員会	学術調査	平安：城柵跡
17	鎧ヶ崎城跡	美郷町六郷東根字北鎧ヶ崎	9/ 5～12/ 5	36	美　郷　町教育委員会	学術調査	中世：城館跡
18	金沢城跡（第９次）	横手市金沢中野字権五郎	9/29～12/ 8	200	横　手　市教育委員会	後三年合戦関連遺跡調査	平安・中世：城館跡
19	一本杉遺跡	横手市平鹿町下吉田字一本杉堂ノ後	5/ 8～9/ 8	4,400	横　手　市教育委員会	ほ場整備事業	古墳：集落跡
20	上掵遺跡	東成瀬村田子内字菅生田掵・字上掵	7/10～9/29	151	東成瀬村教育委員会	縄文ロマン事業	縄文：集落跡

＊太字の遺跡名は次頁以降に概要を掲載している遺跡。

（２）発掘調査概要

堤沢山遺跡（つつみさわやま）

【調査要項】

所　在　地	秋田県由利本荘市川口字大学堤沢山８－２外
調 査 期 間	平成29年７月18日～９月27日
調 査 面 積	300㎡
遺 跡 の 時 代	縄文時代、中世
遺 跡 の 性 格	散布地(縄文時代)、製鉄関連遺跡(中世)
事　業　名	日本海沿岸東北自動車道（本荘～岩城）付加車線工事
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
調 査 担 当	山村　剛、小山美紀

【調査概要】

検　出　遺　構	主な出土遺物
中　世　炭窯　１基　柱穴様ピット　１基	縄文時代　石器剥片 中　世　炉壁、鉄滓

堤沢山遺跡は、ＪＲ羽後本荘駅から北東1.9km、秋田県立大学本荘キャンパスの東方100mに位置し、標高30～50mの丘陵に三方を囲まれた沢と斜面に立地する。平成15・16年度に日本海沿岸東北自動車道建設に先立ち発掘調査が行われた。今年度は自動車道の付加車線工事に伴い、前回の調査区北東部に隣接して南北方向に延びる沢の落ち込みと東側の斜面を対象とした調査の２年目となる。

過去３か年の調査により、製鉄炉跡・鋳造遺構・鍛冶炉跡、炭窯跡等の遺構が確認され、特に梵鐘鋳造遺構では鋳型を縛って固定した掛木痕が確認されている。遺物は、鋳型や羽口、炉壁・鉄滓等が出土し、中でも梵鐘や仏具の鋳型は県内で初めての出土である。梵鐘の龍頭・撞座の部分、寺院の法会で使用される磬、鍋・羽釜等の日常品の鋳型も出土した。これらの結果、遺跡では12～13世紀代に梵鐘や馨等の仏具とともに、日常用具の生産が行われていたことが判明していた。

今年度の調査では、調査区外へと続く東側緩斜面で、炭窯１基が確認された。炭窯は試掘溝により一部が壊されており、さらに調査区外へ続くことから全体の形状は不明であるが、長さ2.78m、幅1.20m以上の規模を有する。また炭窯の底面外周には、防湿のためと思われる幅23～58㎝、深さ15㎝の溝が掘られていた。床面には強い被熱痕はなく、床上に木炭が残され、埋土に多量の炭化物が含まれていることから、伏せ焼き窯と思われる。伏せ焼き窯は、地面を掘り込んだ後、床上へ木材を敷き、その後土を被せた屋根を設けて焚き口近辺で火を起こすが、直接木材に火をつけず、蒸し焼きの状態になるため床面に強い被熱の痕跡が残らなかったと思われる。炭窯は遺跡内で他に４基確認され、内２基が伏せ焼き窯で、他の２基は緩斜面をトンネル状に掘り抜いて木炭を生産していた半地下式炭窯である。これらの炭窯は、遺跡内の作業で使用する木炭を生産したものと考えられる。今回確認された炭窯東側の調査区外には、比較的平坦な地形が続くため、一連の作業場があったと想定される。また調査区中央を南流する沢からも少量の炉壁・鉄滓が出土し、調査区外北側に隣接する標高の高い部分にさらに作業場が設けられていた可能性もある。

これらの成果により、遺跡ではエリア毎に、綿密な計画の下で操業が行われていたことが判明した。

遺跡全景
（上が北）

調査区南側
（南から）

炭窯跡
（西から）

手の上遺跡

【調査要項】

所　在　地　　秋田県潟上市昭和豊川船橋字手の上96－１ほか
調 査 期 間　　平成29年５月29日～７月21日
調 査 面 積　　720㎡
遺跡の時代　　古代、中世、近世
遺跡の性格　　河川跡（古代）、道路跡（近世）
事　業　名　　広域河川改修工事（豊川）事業
事業関係機関　　秋田県秋田地域振興局建設部
調 査 担 当　　村上義直、武内真之、乙戸　崇

【調査概要】

検　出　遺　構					主 な 出 土 遺 物
古　代～中　世	護岸遺構	３基	杭列	２条	古　代～中　世 土師器　須恵器　須恵器系中世陶器 白磁　鉄製品　鉄滓　遺材 木製品（什器、卒塔婆、木　簡等）
	河川跡	１条			
近　世	道路状遺構	１条			近　世　　陶磁器

手の上遺跡は、ＪＲ奥羽本線大久保駅の東3.2kmに位置し、西流し八郎潟に注ぐ豊川中流の左岸標高８ｍの低地に立地する。豊川を挟んだ南北の丘陵地には、「秋田」銘入りの刻印瓦が出土し、秋田城と関連した烽火施設の可能性が指摘された羽白目遺跡をはじめ、古代の遺跡が数多く分布するほか、遺跡の周囲１km以内には中世城館も立地する。

調査では、古代の河川跡を検出し、河岸や河川内から、板材と杭材で構築された護岸遺構や河岸付近に打設された杭列を検出した。河川跡は、規模や深さ等から調査地北側に隣接する豊川の旧河道と推測される。古い時期の河道に伴う護岸遺構は、岸に沿わせて設置した横長の割板材を所々太い杭材で押さえた木組みが流心側に倒壊した状態で検出された。これより新しい時期の河岸に伴う護岸遺構は、３ｍほど流心側にある。横長で薄手の板材を比較的細い杭材で押さえ込んでおり、流心側にやや倒れた状態で検出された。河川内からは、土器や陶磁器、什器・卒塔婆・木簡等の多様な木製品及び遺材、鉄製品・鉄滓等の古代を中心とする遺物が大量に出土した。

河川内堆積層の状態から、河道は徐々に南側に移動していったと推測され、調査地内において対岸を確認することはできなかった。川底は、遺構確認面から1.5m前後の深さにあり、水分を多く含む泥炭質土が堆積しているため、木製品が良好な状態で保存されている。

今回の調査では、金属製品の鋳造を示す遺物や、刳形や粗形等の木製品の加工を示す遺物が出土しており、遺跡周辺域で生産活動が行われていたことが判明した。また、白磁・青磁等の高級陶磁器や木簡等からは、有力者や寺院等の存在が窺われ、金属製品や木製品の生産との関連が注目される。

調査区遠景
（東側上空から）

河川内の護岸遺構（古）
（西から）

河川内の護岸遺構（新）
（南西から）

4　刊行物一覧

遺跡名	片貝遺跡	発掘調査年	27・28年度	発行年月	30年３月
書　名	秋田県文化財調査報告書第509集 片貝遺跡―大館工業団地開発事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―				
内　容	遺跡の時代	縄文時代　平安時代			
	遺跡の性格	狩猟場　集落跡			
	検出遺構	縄文時代：土坑10基、陥し穴状遺構42基 平安時代：竪穴建物跡25棟、掘立柱建物跡５棟、柵列跡７条、溝跡２条、土坑３基、捨て場１か所、性格不明遺構１基 時期不明：柱穴様ピット			
	出土遺物	縄文時代：縄文土器、石器 平安時代：土師器、須恵器、鉄製品			

遺跡名	町村Ⅱ遺跡	発掘調査年	28年度	発行年月	30年３月
書　名	秋田県文化財調査報告書第510集 町村Ⅱ遺跡―地方道路等整備事業（建設）主要地方道秋田八郎潟線（町村工区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―				
内　容	遺跡の時代	縄文時代　中世以降			
	遺跡の性格	狩猟場　散布地			
	検出遺構	縄文時代：掘立柱建物跡３棟、柱列４条、土器埋設遺構１基、土坑４基 陥し穴状遺構３基、柱穴様ピット19基 中世以降：カマド状遺構７基 時期不明：柱穴様ピット136基			
	出土遺物	縄文土器、石器			

書　名	秋田県文化財調査報告書第511集 遺跡詳細分布調査報告書	発掘調査年	29年度	発行年月	30年３月
内　容	平成29年度に実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告。				

書　名	秋田県埋蔵文化財センター研究紀要　第32号	発行年月	30年３月
内　容	宇田川浩一　「払田柵を造る－予算と人員－」 山村　剛　「戦国時代における本堂氏の拠点移動について」 利部　修　「仏教の「三十三」数字考－33年の節目に－」 安田　創　「下部単孔土器の使用痕とその分析について」 小山美紀　「秋田県内出土の常滑窯製品」 赤星純平　「縄文時代の黒曜石産地分析集成－秋田県域を中心に－」 冨樫那美　「秋田県域における縄文時代の墓制－県南域の墓の集成（１）－」 工藤伸也・大森　浩　「埋蔵文化財の学校教育への活用事例 －近年の「出前授業」の取組から－」		

書　名	秋田県埋蔵文化財センター年報35（平成28年度）	発行年月	29年６月
内　容	秋田県埋蔵文化財センターの平成28年度の歩みを総括し、Ⅰ沿革、Ⅱ組織･施設、Ⅲ平成28年度の歩み、Ⅳ事業の概要、Ⅴ研修事業等を記載。事業の概要では、平成28年度発掘調査した４遺跡の発掘調査概要、活用・普及事業の実績を掲載。		

書　名	米代川流域の縄文文化 ～縄文集落の変遷とストーンサークルの出現～	発行年月	29年６月
内　容	平成29年６月から平成29年９月開催の平成29年度企画展第Ⅰ期展示解説パンフレット。米代川流域及びその周辺における縄文時代前期から後期前半の遺跡を紹介。Ａ４判カラー８頁。		

書　名	米代川流域の古代社会～集落・生業・墓と祭祀～	発行年月	29年９月
内　容	平成29年９月から平成30年２月開催の平成29年度企画展第Ⅱ期展示解説パンフレット。米代川流域及びその周辺の古代遺跡の調査結果から当時の人々の生活や社会の一端を紹介。Ａ４判カラー８頁。		

書　名	平成29年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料	発行年月	30年３月
内　容	平成30年３月11日に開催した、平成29年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会の配付資料。平成29年度に県内で発掘調査された遺跡のうち、主要なものの発掘調査成果について、カラー写真と平易な文章で紹介。県内発掘調査遺跡一覧表と遺跡位置図、年表も掲載。		

５　活用・普及事業

埋蔵文化財センターでは、発掘調査成果をはじめ多くの文化財を活用して、秋田の歴史、地域の歴史を県民に発信するために、資料の公開・活用・普及事業を積極的に推進している。今年度も企画展、講演会、バスツアー、セミナー、遺跡見学会等の各種事業を展開した。

（１）秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

秋田県教育委員会及び市町村教育委員会等の実施した発掘調査成果を広く県民に公開し、埋蔵文化財の保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から発掘調査報告会を開催している。

今年度は平成30年３月11日（日）、秋田県生涯学習センターとの共催で同センターを会場に開催し、10本の報告と出土品、写真パネル等を展示した。参加者は260名で、配布資料に目を通し、メモを取りながら熱心に報告を聞いたり、報告内容について質問したりしていた。展示会場でも同様な姿が見られた。

また、同時開催したオープンラボ（考古学体験教室）では、史跡払田柵跡出土第７号漆紙文書の赤外線カメラによる公開や顕微鏡観察等、各種体験に延べ173名が参加し、盛況のうちに終了した。

全体的には時間に大幅な遅れ等もなく予定どおりに運営された。報告や展示にあたっては各市町村教育委員会から、運営や準備等にあたっては県生涯学習センターから協力をいただいた。

【報告内容】　会場での報告に加え、出土品、写真パネル等も展示した。

1　平成29年度県内発掘調査の概要　　中央調査班主任文化財専門員　磯村亨
2　一本杉遺跡（横手市）　　横手市教育委員会　島田祐悦氏
3　史跡秋田城跡（秋田市）　　秋田市立秋田城跡歴史資料館　児玉駿介氏
4　史跡払田柵跡（大仙市・美郷町）　　調査班文化財主査（兼）県教育庁払田柵跡調査事務所　吉川耕太郎
5　片貝家ノ下遺跡（大館市）　　中央調査班副主幹　村上義直
6　手の上遺跡（潟上市）　　中央調査班学芸主事　武内真之
7　金沢城跡（横手市）　　横手市教育委員会　島田祐悦氏
8　堤沢山遺跡（由利本荘市）　　調査班学芸主事　山村剛
9　史跡檜山安東氏城館跡（能代市）　　能代市教育委員会　播摩芳紀氏
10　大館城跡（大館市）　　大館市教育委員会　馬庭和也氏

【展示遺跡】※上記の報告、展示に加え、次の３遺跡の出土品、写真パネル等も展示した。

大沢Ⅰ遺跡・大沢Ⅱ遺跡（能代市）　鎧ヶ崎城跡（美郷町）

なお、会場となった秋田県生涯学習センターでは、「平成29年度秋田県内発掘調査成果展」を３月13日（火）から４月８日（日）まで１階玄関ホールにて開催し、今回の報告会で使用した遺跡の写真や遺構配置図等を展示した。

報告会場の様子

史跡払田柵跡出土第７号漆紙文書公開の様子

（２）遺跡見学会

発掘調査成果を広く県民に公開し、郷土の歴史と埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうことを目的に、今年度は、手の上遺跡（潟上市）の発掘調査現場で遺跡見学会を実施した。会場では、検出遺構や出土遺物を公開し、調査担当者が説明を行った。

手の上遺跡では、潟上市昭和を流れる豊川の古代から中世にかけての河道が見つかり、板材や杭材を組んで作られた当時の護岸施設をはじめ、青磁・白磁といった舶載磁器が出土して注目を集めた。

遺　跡　名	日　時	主　な　公　開　内　容	参加者
手の上遺跡 （潟上市）	７月１日（土） 13：30～15：30	古代～中世（河道跡、護岸施設、青磁、白磁） 近世（道路状遺構）	80名

河道跡の説明

出土遺物の説明

（３）セカンドスクール的利用

セカンドスクール的利用は、県生涯学習課が推進する事業で教育施設等の人的・物的機能を十分に活用し、学校と教育施設等が一体となって、郷土の自然や文化との触れ合い体験・共同生活体験、各教科や総合的な学習の時間等の取組を複合的に実施する利用方法である。当センターでは、考古資料

に様々な形で触れることで社会科、総合学習等をサポートしている。最近は、来所しての利用に加え、当センター職員が学校に資料等を持参して行う出前授業が増えている。

①利用状況

学校	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校	その他	合　計
利用件数	24	13	2	5	1	45
利用人数	840名	352名	36名	81名	33名	1,342名

②活動の具体例

・縄文土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験
・大昔の人々の知恵に学ぶ「石器づくり」、「土器づくり」
・特別展示室や整理作業室、収蔵庫の見学
・地域の遺跡や文化財の学習を支援する「授業サポート」
・発掘現場の見学

特別展示室の見学

③職場体験・インターンシップ

当センターで実施している発掘調査や整理作業を見学・体験することによって、職業に対する関心を高め、考古学や文化財保護の業務に関する理解を深めることを目的として行っている。

平成18年度からセカンドスクール的利用の一環として職場体験やインターンシップの受け入れを始めた。今年度は、中学校１件６名、高等学校３件21名の利用があった。

④出前授業

出前授業は、基本的に普段当センターで行っている「土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験」と「地元の発掘調査成果を元にした遺跡や出土品の展示・説明」を組み合わせた授業で、縄文時代を中心に古代から中世にかけての地域の歴史を扱っている。出土品を実際に手に取り、地元にも多数の遺跡があることを知ってもらうことによって、児童・生徒の、地域の歴史や文化財への興味・関心を深め、その後の歴史学習に対する意欲を高めることを目的としている。

八郎潟中学校２・３年生

今年度の出前授業は小学校10件、中学校10件、高等学校２件、特別支援学校２件、専修学校１件であった。

⑤平成29年度の成果

本物の土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験や石器づくりが人気のメニューである。昨年度に比べ、利用件数・人数とも増加したが、その理由として、中学校や出前授業の希望が多かったことがあげられる。特に八郎潟中学校では、総合的な学習の時間のテーマに「ふるさと学習」を掲げ、２・３年生の歴史コースに計８回の出前の依頼があった。このほか、これまで希望が少なかった県中央部の学校の利用が、センターでの活動、出前授業とも増えている。

（４）企画展

企画展は、特別展示室を会場に、設定テーマに基づき当センターの収蔵資料を中心とした展示品で構成し毎年開催している。平成27年度からは、３年計画で県南、県央、県北の各地域ごとに代表的な遺跡を紹介しており、最終の今年度は、「米代川流域の考古学」として県北地域の遺跡を対象とした。展示は、第Ⅰ期と第Ⅱ期の２時期に分け、第Ⅰ期は「米代川流域の縄文文化」、第Ⅱ期は「米代川流域の古代社会」と題し、それぞれ縄文時代の遺跡と古代の遺跡の発掘調査成果を紹介した。

第Ⅰ期は、副題を「縄文集落の変遷とストーンサークルの出現」とし、平成29年６月３日から平成29年９月10日まで開催した。能代市杉沢台遺跡等の大規模集落が成立する縄文時代前期後半から、北秋田市伊勢堂岱遺跡のストーンサークルが出現する縄文時代後期前半までの遺跡を紹介した。展示遺跡は、杉沢台遺跡、伊勢堂岱遺跡のほか、中期後半の三種町古館堤頭Ⅱ遺跡、後期前半の能代市真壁地遺跡など計10遺跡である。展示では、前期後半には沿岸部と内陸部に大規模集落が成立し、これらの集落では円筒土器など共通した出土品が存在する一方で、大形住居跡の特徴や墓地の有無などに違いがあることも紹介した。中期では、縄文土器や住居跡の特徴が南の文化の影響を受けて変化することを示した。さらに、中期後半から後期前半にかけては、河原石を使った施設や墓が目立ってくること、その一方で、ストーンサークルは伊勢堂岱遺跡等の特別な遺跡に限って存在することを紹介した。期間中の見学者は849名であった。

第Ⅰ期展示の様子

第Ⅱ期は、副題を「集落・生業・墓と祭祀」とし、平成29年９月23日から平成30年２月25日まで、古代の集落など３つの分野に分けて展示を行った。集落では、能代市鴨巣Ⅰ・Ⅱ遺跡、北秋田市脇神館跡、大館市坂下Ⅱ遺跡など計７遺跡の集落の特徴やその出土品を紹介した。生業では、大館市片貝家ノ下遺跡の水田跡の写真のほか、米代川流域の各遺跡から出土した農耕具、狩猟具、漁具等も展示し、食料を獲得するための農耕や多様な活動を紹介した。また、大館市釈迦内中台Ⅰ遺跡の製鉄遺構等の展示から、律令国家からの技術導入による手工業生産について紹介した。墓と祭祀では、円形周溝墓や火葬墓、土坑墓など多様な形態の墓が営まれたことを紹介するとともに、能代市樋口遺跡出土の斎串や各集落から出土したまじない用の墨書土器等を展示し、律令国家の文化の影響を受けたと考えられる祭祀が行われていたことなども紹介した。期間中の見学者は、843名であった。

第Ⅱ期展示の様子

（５）講演会

本年度の講演会は、『アイヌと蝦夷（えみし）』をテーマとして９月３日（日）に秋田県生涯学習センター３階講堂を会場として開催した。演題・講師は次のとおり。

「古代の北海道はどのような世界か」　　旭川市博物館館長　瀬川拓郎氏
「古代の東北北部にアイヌ語地名を残したのは誰か」　東海大学教授　松本建速氏

瀬川氏の講演は、縄文人とアイヌの遺伝子的特徴についての紹介から始まり、弥生時代から平安時代の北海道の人々の暮らしについて考古資料から考察を進めた。

1　縄文人とアイヌ
2　なぜ農耕を受け入れなかったのか
3　もうひとつの弥生化
4　古墳時代の北海道と海民
5　海民貿易から国家管理交易
6　北海道へ移住する秋田・青森の海民

講演中の瀬川拓郎氏

松本氏は「比内」のナイや「仁別」のベツの音を持つアイヌ語地名の分布からアイヌ語系言語を使う人々が北東北に暮らしていたこと、また、墓や土器など様々な資料から、アイヌ語地名を残したのは７世紀以降、北東北に移住した日本語話者と持論を展開した。

1　アイヌ語地名の分布は何を示すか
2　従来説と松本の疑問
3　資料と方法
4　考古資料から考える東北北部の人々
5　東北北部の考古資料と民俗資料の関係
6　古代の東北北部にアイヌ語地名を残したのは誰か

講演中の松本建速氏

参加者は276名だった。

（6）あきた埋文考古学セミナー

第１回『ここまで変わった？！秋田の中世～八郎潟・男鹿周辺の中世遺跡が語ること～』

期　日：７月22日（土）
会　場：秋田県立図書館
参加者：92名
講　師：髙橋　学（副所長）

髙橋副所長講演の様子

県立図書館との共催で開催した。講演では、平成初め頃までは発掘調査をしても遺物があまり見つからなかった秋田の中世の状況が、井川町の洲崎遺跡と男鹿市の脇本城跡の調査により、膨大な木製品などの遺物が発掘されたことから、中世の秋田が「木都」であったことが分かってきたことが紹介された。参加者の高校生からも質問があり、関心の高さがうかがえた。講演に続き、第１回出張展示『洲崎遺跡と脇本城跡～中世秋田を大きく変えた二つの遺跡～』の展示解説を髙橋副所長と男鹿市教育委員会の伊藤直子氏が行った。

第２回『出土品が語る鳥海山麓の縄文文化～にかほと遊佐～』

期　日：平成29年９月16日（土）

会　場：仁賀保公民館

参加者：27名

講　師：石船清隆氏（白瀬南極探検隊記念館副主幹）

　　渋谷咲智氏（遊佐町教育委員会主事）

展示見学の様子

にかほ市、山形県飽海郡遊佐町の両教育委員会との共催により開催した。石船氏の講演では、鳥海山の成り立ちや山体崩壊、埋もれ木、鳥海山北麓の縄文遺跡、ヲフキ遺跡と小山崎遺跡の石器などについて、出土品や資料から概説した。渋谷氏の講演では、遊佐町の小山崎遺跡の土器や石器、利用植物、動物遺体等の出土品から考察し、遺跡の様相、縄文時代の暮らしぶり等が紹介された。講演に続き、出張展示の展示見学を行い、展示資料をとおして考えられる遺跡の特徴等について解説していた。展示見学終了後も講演内容や展示品について個別に質問する方も多く、関心が寄せられていた。広報や準備、運営等でにかほ市、遊佐町の両教育委員会より協力をいただいた。

第３回　『米代川流域の縄文文化with大館の高校生による発掘活動』

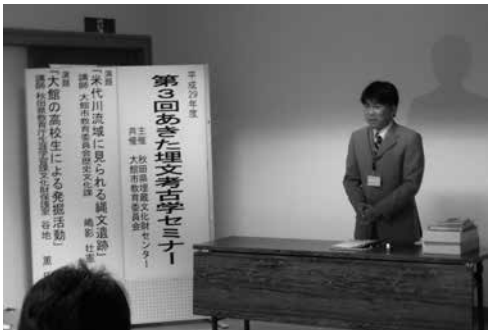
期　日：平成29年10月28日（土）

会　場：大館郷土博物館（大館市）

参加者：45名

講　師：嶋影壮憲氏（大館市教育委員会）

　　谷地　薫氏（秋田県教育委員会）



第３回セミナー　嶋影氏講演の様子

大館市教育委員会との共催により開催した。嶋影氏の講演では、出張展示「米代川流域の縄文文化」を理解し易い構成で、米代川流域に見られる縄文遺跡の写真や実測図等資料を提示しながら解説がなされた。また、谷地氏からは、40年以上前に高校生が行った発掘活動の様子や高校生が刊行した報告書の紹介及び茂屋下岱式土器群の意義について述べられた。参加者からは「これまでにない視点から発掘活動を考えることができた。」という声が聞かれ、両講師からいただいた講演は大変好評であった。講演終了後は美術展示室に移動し、開催中の第３回出張展示「米代川流域の縄文文化with大館の高校生による発掘活動」の展示見学を行い、各遺跡にみられる特徴について解説を行った。高校生の発掘に関わる展示では、谷地氏が解説を行い、かつて高校の社会部員として発掘活動を行っていた方が数名集まり、当時の思い出話に花を咲かせていた。

（７）あきた埋文出張展示

出張展示は埋蔵文化財を活用した展示を当センター以外の施設でも行い、より広く県民に公開することによって地域の歴史や文化、埋蔵文化財に対する理解を深めていただくことを目的としている。今年度は県内３会場で開催した。

第１回『洲崎遺跡と脇本城跡～中世秋田を大きく変えた二つの遺跡～』

会期：平成29年７月６日（木）～８月16日（水）

会場：秋田県立図書館 ２階 特別展示室

男鹿市　史跡脇本城跡展示状況

秋田県立図書館、男鹿市教育委員会との共催事業として開催した。展示は洲崎遺跡と脇本城跡について、写真パネルで主な遺構の様子や遺物の出土状況を紹介するとともに、両遺跡の木製品や陶磁器等の出土品を展示して八郎潟・男鹿周辺から見た秋田の中世を紹介した。会期中に同会場で第１回あきた埋文考古学セミナーを開催し、セミナー終了後に展示解説を行った。展示解説終了後も講演内容や展示品について個別に質問する方も多く、関心が高かった。期間中の来場者は5,486人で、県立図書館や男鹿市教育委員会には広報や運営、出土品展示等で大きく協力をいただいた。

第２回『出土品が語る鳥海山麓の縄文文化～にかほと遊佐～』

会期：平成29年９月５日（火）～10月22日（日）

会場：仁賀保公民館

遊佐町小山崎遺跡、柴燈林遺跡展示状況

にかほ市教育委員会と山形県飽海郡遊佐町教育委員会との共催事業として開催した。鳥海山麓には豊富な湧水とそれを源流とする水系が形成され、多くの遺跡が立地しており、特に縄文遺跡群が顕著に認められる。今回の展示では縄文遺跡のうち、鳥海山北麓としてにかほ市のヲフキ遺跡、南麓として遊佐町の小山崎遺跡や柴燈林遺跡、小倉向遺跡、三崎山Ａ遺跡、杉沢Ａ遺跡を取り上げ、それぞれの遺跡の様相を出土した遺物や写真等で紹介した。昨年度に続き２回目の遊佐町の展示では、火炎土器等の出土品を追加して展示スペースを拡大した。会期中に同会場で第２回あきた埋文考古学セミナーを開催し、セミナー終了後に展示解説を行った。また、10月３日（火）、６日（金）実施の「第３回、第４回古代発見！バスツアー」でも展示を見学し、解説を行った。期間中の来場者は214人で、同市・町教育委員会には展示解説や企画、運営等で大きく協力をいただいた。

第３回『米代川流域の縄文文化with大館の高校生による発掘活動』

会期：平成29年９月30日（土）～11月26日（日）

会場：大館郷土博物館（大館市）

大館市教育委員会との共催事業として開催した。「米代川流域の縄文文化」と題し、米代川流域及びその周辺地域における縄文時代前期後半から後期前半の遺跡を取り上げた。本地域においては、前期後半に集落形成が顕著となり、集落は多様に変遷する。後期前半には米代川中流～上流域に大湯環状列石や伊勢堂岱遺跡の例に代表される巨大なストーンサークル（環状列石）が出現する。こうした移り変わりの社会的な背景やその意味を当センターの発掘調査成果を中心に紹介した。

また、今から40年以上前に大館市の高校生が行った発掘活動についても取り上げた。遺跡の発掘は、かつて教鞭をとり、大館市史編さん及び専門委員を務めた奥山潤氏から指導を仰ぎながら、大館鳳鳴、大館桂の両高校社会部員が行った。調査成果については、昭和40年頃に発掘した鳴滝（なるたき）遺跡をはじめ、高校生が自らまとめて数冊の報告書も発行している。発掘された出土品と写真や刊行された報告書等の資料から、ひたむきな若者たちの姿を紹介した。会期中に同会場で第３回ふるさと考古学セミナーを開催し、セミナー終了後に展示解説を行った。期間中の来場者は870人で、同市教育委員会には広報や運営等で大きく協力をいただいた。

第３回出張展示展示品（高校生刊行報告書等）

（８）古代発見！バスツアー

遺跡や史跡をバスで巡回し、郷土の歴史や文化財について理解を深めてもらうとともに、埋蔵文化財センターの活動を広く知ってもらうことを目的とした事業である。今年度は『県北の遺跡・文化財探訪コース』と『鳥海山麓の遺跡・文化財探訪コース』を設定し、秋田市発着で２回、大仙市及び由利本荘市発着でそれぞれ１回ずつ、合計４回実施した。

新聞・チラシ・ホームページ等で広報し、各コースとも第２希望日まで応募できるようにした結果、各回の人数を調整して参加希望に応えることができた。

回	期日・参加人数	内　　容　・　コ　ー　ス
第１回 第２回	９月26日（火） 【参加者　21名】 ９月29日（金） 【参加者　28名】	『県北の遺跡・文化財探訪コース』 縄文時代後期の環状列石が４基発見されている国指定史跡伊勢堂岱遺跡は熊被害により急遽公開休止となったため、資料展示施設である伊勢堂岱縄文館を北秋田市教育委員会の職員の方に案内していただき、これまでの発掘調査と史跡整備の様子や出土品について解説していただいた。 檜山安東氏城館跡は地形をいかした山城で、その構造や実態を把握するため、平成28年度から発掘調査が行われている。当日は、能代市教育委員会の職員の方に案内していただき、本丸や二の丸、三の丸、曲輪、空堀など主要な施設を見学することができた。 ・秋田駅東口→伊勢堂岱遺跡縄文館（北秋田市）→道の駅ふたつい（能代市）→史跡檜山安東氏城館跡（能代市）→道の駅ことおか（三種町）→秋田駅東口　　※道の駅ふたついで昼食・休憩。
第３回 第４回	10月３日（火） 【参加者　17名】 10月６日（金） 【参加者　26名】	『鳥海山麓の遺跡・文化財探訪コース』 山形県飽海郡遊佐町では同町埋蔵文化財調査室や野田遺跡発掘調査現場、にかほ市の仁賀保公民館ではあきた埋文出張展示を見学した。埋蔵文化財調査室では、埋蔵文化財の整理収蔵の様子や館内に展示されている出土品について同町教育委員会の方から案内と解説をいただいた。野田遺跡発掘調査現場は、山形県埋蔵文化財センターの職員の方々から案内と解説をいただき、遺跡の概要を知るとともに、庄内地方と秋田県での古代の住居形態の違いを紹介いただく等、見聞を広めることができた。

		仁賀保公民館でのあきた埋文出張展示見学では、にかほ市や遊佐町の遺跡から出土した土器や土偶等を見学した。特に、普段見ることのない遊佐町の遺跡出土品について、同町教育委員会の方から詳しい解説をいただいた。 第３回　10月３日（火） ・大曲駅東口（大仙市）→道の駅おおうち（由利本荘市）→遊佐町埋蔵文化財調査室→野田遺跡発掘調査現場（遊佐町）→道の駅鳥海（遊佐町）→仁賀保公民館（にかほ市）→道の駅おおうち→大曲駅東口 　※大曲駅東口と道の駅おおうちで乗降車。 第４回　10月６日（金） ・道の駅おおうち（由利本荘市）→羽後本荘駅（由利本荘市）→遊佐町埋蔵文化財調査室→野田遺跡発掘調査現場（遊佐町）→道の駅鳥海（遊佐町）→仁賀保公民館（にかほ市）→羽後本荘駅→道の駅おおうち 　※道の駅おおうちと羽後本荘駅で乗降車。 第３回、４回共通 　※道の駅鳥海で昼食。 　※仁賀保公民館で「第２回あきた埋文出張展示」を見学。

参加された方々からは、「資料も充実しており、各施設、現地での説明も丁寧で分かりやすかった」、「毎回参加しているが新しい発見がある」、「郷土の歴史が身についた」、「隣県の遺跡を見学できてとてもうれしかった」、「次回はどこの遺跡に会えるかとても楽しみ」、「縄文館のビデオと説明がわかりやすかった」、「車中でのミニ解説が大変よかった」等の感想をいただいた。

第１回、２回　史跡檜山安東氏城館跡の見学

第３回、４回　野田遺跡発掘調査現場の見学

（９）共催・機関連携等による普及事業

①農業科学館まつり

平成29年７月９日（日）に開催された平成29年度農業科学館まつりに協力団体の一つとして参加し、「縄文時代の遊び・生活体験」として弓矢体験と文様染め（コースターづくり）体験、土器の接合体験を行った。また、土器資料キットや狩りと漁キットを持参し、土器や石器も展示した。

猛暑にもかかわらず、親子連れを中心に延べ186人の参加者が各体験に取り組んだ。はじめは苦労

しながらもしだいにコツをつかんでいき、「おもしろかった」、「来年もまたやってみたい」という感想をたくさんいただいた。また、各体験に何度も取り組む子どもの姿も多く、弓矢体験では、毎年体験していて上達している子どもも多く見られた。土器や石器に触ってみたり、土器の文様をじっくり観察している参加者も見られた。他の団体の催し物とともに利用してもらい、埋蔵文化財センターの体験活動を多くの人に紹介することができた。

文様染め体験の様子

②土器に生ける秋の草花展

県立農業科学館との共催で、10月７日から10月22日まで開催した。今年度は、横手市竹原窯跡、富ヶ沢窯跡、田久保下遺跡出土の須恵器７点、湯沢市館堀城跡、大仙市小出Ⅰ遺跡出土の中世陶器３点及び関連するパネル資料を展示した。秋の草花は東大曲小学校４～６年生と保護者のみなさんに生けてもらったが、素朴な土器に色鮮やかな花がマッチし、季節を感じさせる作品に仕上がった。

農業科学館展示会場

③あきた県庁出前講座

あきた県庁出前講座は、県職員が県民の要請に応じて講師として出向き、さまざまな情報を提供して県事業等への理解を図ることを目的としている。埋蔵文化財センターでも特長をいかした講座を用意している。

月　日	要請団体	内　　容	番号	講　　師	会　場
７月15日(土)	鷹巣地方史研究会	出土品から学ぶ秋田の歴史【参加者　45名】	181	副所長　髙橋　学	北秋田市民ふれあいプラザ「コムコム」

④払田柵跡古代体験フェス2017

昨年度に引き続き大仙市教育委員会とともに払田柵跡で、小学生の夏休み期間に合わせ実施した。古代の生活に触れる体験をとおして、地域の歴史や現代の生活との違いについて学習するのが目的である。

期日：７月28日（金）

会場：払田柵跡史跡公園内

高校生と火起こしを体験する小学生

体験内容は、木簡はがき・絵馬づくり、勾玉づくり、平安衣装着用、乗馬、南門登上、火おこし、弓矢、投壺、赤外線カメラによる木簡観察体験等である。雨天にもかかわらず、小学生と保護者合わせて55名が集まり、インターンシップの高校生からサポートしてもらいながら古代の生活を体験していた。

⑤　あきたスマートカレッジ連携講座　「発掘！考古ゼミ」

県生涯学習センターとの機関連携事業である。県の教育機関どうしが連携し、相互に特徴を生かすことによって活性化を図ることをめざしている。県生涯学習センターを会場に３回開催し、秋田市を中心に多数の受講者を得ることができた。講座をとおして、発掘調査結果から明らかになってきたことや、埋蔵文化財センターの活動等を紹介することができた。

回	期　　日	講演テーマ・参加人数	講　　師
第１回	11月17日（金）	米代川流域の埋没家屋 【参加者　26名】	中央調査班 副主幹　村上義直
第２回	11月24日（金）	払田柵を設計する－『九章算術』との関係－ 【参加者　37名】	県教育庁払田柵跡調査事務所 副主幹（兼）調査班長　宇田川浩一
第３回	12月１日（金）	埋蔵文化財の発見と発掘調査 【参加者　30名】	中央調査班 主任文化財専門員（兼）班長　磯村亨

⑥湯沢市との連携展示

テーマ：『湯沢雄勝の縄文文化－堀ノ内遺跡－』

会期：平成29年７月11日（火）～７月30日（日）

会場：湯沢市雄勝郡会議事堂記念館　１階展示室

連携展示の様子

湯沢市教育委員会との連携事業として開催した。堀ノ内遺跡は湯沢市上関にあり、雄物川の支流麓沢川右岸の沖積地に立地する。平成15、16年に3,250㎡が発掘調査され、縄文時代後期末から晩期前葉にかけての墓域が発見された。遺跡からは大量の遺物と400基をこえる土坑墓、土器埋設遺構、配石遺構等が見つかり、埋葬や「もの送り」等の祭祀が長期間営まれたことが分かっている。その出土品を展示するとともに、写真パネルで遺構の様子や遺物の出土状況を紹介し、遺跡の特徴や地域的な特色、当時の暮らしや社会等について解説した。会期中150人の来場者があり、湯沢市教育委員会、雄勝郡会議事堂記念館には広報や運営等で多大な協力をいただいた。

⑦能代市おもしろ塾との連携展示

会期：平成30年３月１日（木）～３月２日（金）

場所：能代市文化会館中ホール

連携展示の様子

能代市おもしろ塾主催の「能代市杉沢台遺跡を再評価する」に共催。センター所蔵の資料に加え、能代市所有で県立博物館に貸し出されている土偶を加え展示した。また、会場の壁面には杉沢台遺跡関連の写真パネルを展示した。３月１日午後にはシンポジウムが開催され、文化財保護室の新海和広氏の展示解説、県文化財保護審議会会長冨樫泰時氏の講演等が行われた。シンポジウム終了後と２日はセンター職員が来場者に展示物等の説明をした。悪天候にもかかわらず、初日は200名、二日目は150名とたくさんの方々が来場した。

（10）所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績

年　　度	27年度	28年度	29年度
所蔵資料 貸 出 数	42件	22件	38件
キ ッ ト 貸 出 数	６件	９件	４件
ビ デ オ 貸 出 数	１件	０件	０件
火起こし 貸 出 数	１件	３件	１件

※所蔵資料貸出内訳

資　料 種　別	使用目的　（複数利用含む）		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺　跡　出　土　品	11件	０件	３件
フィルム写真データ	26件	10件	０件
デジタル写真データ	０件	２件	０件
そ　　の　　他	２件	１件	０件

（11）センター施設の開放と展示

見学者により身近に埋蔵文化財を理解していただくために「いつでもギャラリートーク」を行っている。これは、平日の開館時間に来所された見学者に、要望に応じて専門職員がいつでも展示品の解説を行うというものである。さらに展示ケースを開けて実際の遺物に触れていただき、展示品を「見る」だけでなく、古の息吹をじかに「感じて」いただけるようにしている。ギャラリートークの所要時間は見学者の希望に合わせて15～30分程度である。また、企画展パンフレットや過去の印刷資料等も自由に持ち帰れるようにしている。秋田県内における縄文時代の出土品が見学できる施設や今年度発掘調査が行われている所を大形マップに掲示し、県内の遺物めぐりを提案している。

今年度は、常設展示のスペースを広げてリニューアルし、古代～近世の展示を充実させた。また、企画展に先立ち、「あきた埋文収蔵資料展」を４月８日～５月21日まで開催し、湯沢市堀ノ内遺跡及び男鹿市小谷地遺跡の出土品を取り上げて展示した。

	開館時間	見学可能箇所　※は職員の案内によって可能
平　日	９：00～16：00	特別展示室・第１収蔵庫（※）・整理室（※）・中央調査班展示室
土・日・祝日	９：00～16：00	特別展示室

（休館日：１月１日～３日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月28日～31日）

（12）図書整理・図書一般公開

当センターで発刊した報告書等や他県から送付された報告書等を登録、配架し、図書の利用環境を整備した。また、全国遺跡資料リポジトリ事業における秋田県遺跡リポジトリ公開用電子データとして、奈良文化財研究所に今年度本センターで刊行した発掘調査報告書のＰＤＦデータを提供した。また、秋田県立図書館デジタルアーカイブ公開用電子データとして、平成26年度企画展パンフレット「払田柵跡調査40周年記念　払田柵跡　巨大城柵の実像に迫る」等のＰＤＦデータを同図書館に提供した。これらのデータは、次のＵＲＬで公開されている。

奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」アドレス：http://sitereports.nabunken.go.jp/ja/

秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」アドレス：http://da.apl.pref.akita.jp/maibun/

（13）講演・研究論文等

（平成29年６月）

〈遺跡紹介〉村上義直「秋田県大館市片貝家ノ下遺跡の概要」『考古学研究』253　考古学研究会

（平成29年７月）

〈発表〉神田和彦・石川恵美子・宇田川浩一・赤星純平・根岸 洋・日本旧石器学会データベース委員会 「日本旧石器学会データベース委員会の取り組み（3）―秋田県における更新・改訂作業について―」日本旧石器学会

〈講演〉高橋学「米代川流域の埋没家屋から読み解く北東北の古代社会」『岩手考古学第49回研究大会』北上市相去地区交流センター

〈講演資料〉高橋学「米代川流域の埋没家屋から読み解く北東北の古代社会」『古代の竪穴建物跡－機能と構造－資料集』岩手考古学会

（平成29年10月）

〈発表・資料〉村上義直「十和田平安噴火に伴う火山泥流罹災遺跡の様相－秋田県片貝家ノ下遺跡の概要－」『日本考古学協会2017年度宮崎大会研究発表』宮崎公立大学

〈発表要旨〉村上義直「十和田平安噴火に伴う火山泥流罹災遺跡の様相－秋田県片貝家ノ下遺跡の概要－」『日本考古学協会2017年度大会研究発表要旨』日本考古学協会

（平成29年11月）

〈単著〉利部修『「心象考古学」の試み―造形物の心性を読み解く―』　雄山閣

〈遺跡紹介〉高橋学「門屋城」「角館城」「稲庭城」『東北の名城を歩く 北東北編』吉川弘文館

〈コラム〉高橋学「古代城柵とは何か」『東北の名城を歩く 北東北編』吉川弘文館

〈講演録〉高橋学「胡桃館遺跡と米代川流域の埋没家屋」『鷹巣地方史研究』第73号

〈発表〉高橋学「大館市片貝家ノ下遺跡の発掘調査」『北海道・東北保存科学研究会第34回例会（秋田）』大館郷土博物館

（平成29年12月）

〈論文〉利部修「平安仏教の×形文―真言密教との関連で―」『考古学論究』第19号　立正大学考古学会

（平成30年１月）

〈発表〉小山美紀「東北諸窯」『第36回中世土器研究会：国産陶器の系譜と暦年代』大阪府高槻市教育会館

〈発表資料〉小山美紀「東北諸窯」『第36回中世土器研究会資料集』中世土器研究会

６　運営協議会

【第１回】平成29年６月14日（水）

委　員：小松正夫委員（委員長）、佐藤厚子委員（副委員長）、相場勝也委員、武藏優紀委員、
竹村尚人委員、瀬田川仁委員、髙橋正規委員、山﨑裕子委員、伊藤茂昭委員

事務局：櫻田所長、髙橋副所長、半田総務班長（進行）、五十嵐調査班長、磯村中央調査班長、
大森資料管理活用班長、工藤学芸主事（記録）

会議冒頭には委嘱状の交付と所長挨拶に引き続き、委員長・副委員長の選任では、小松委員を委員長に、佐藤委員を副委員長とする事務局案が全会一致で承認された。次いで、小松委員長の挨拶の

後、同委員長の司会で協議が行われた。案件は、（１）平成28年度事業報告、（２）平成29年度事業計画、（３）「あきた埋文利用拡大についての提言」である。（３）についての各委員からの提言は以下の通り。

・複数の事業を関連させて実施している工夫が感じられた。各事業への参加者数を掲載してもらっているが、成果が顕著に現れている。過半数以上の項目が前年度よりも参加者数が増加している。遺跡の見学会は目玉があるかどうかによって左右されると思うが、それを除くとあきた埋文側の企画や内容によって増加したと思い感心した。学校の生徒はもちろんだが、先生方や自治体（生涯学習担当）の職員向け研修会を長期休業中に実施できないだろうか？

・美郷町に住んでいるが、子どもの頃から親しみがある。小学校も遺跡の近くにあるが、子どもたちにはその意識がないように感じる。美郷町では、ふるさと教育の一環として町内の史跡、施設を巡る取り組みを３年前から行ってきたが、埋文に立ち寄ることがなかった。今後、組み込んでいくことも一つの方向だと考える。それぞれの地教委（市町村教育委員会）と連携を図っていくことが必要であり、教職員一人一人が史跡やあきた埋文等施設の機能を理解していくことから教育課程にどのように組み込んでいくか検討することが重要だと思う。

・学校現場にいるものとして、このようにたくさんの取り組みがあることを今日初めて知った。これをもっと広めていくことが大切だと感じた。自分も歴史に興味があり、子どもたちの中にも目を輝かせる子がいるのでないかと感じる。長期休業中など地区教委と連携し、フィールドワーク等を企画して紹介してもらいたい。学校の普段の授業で行えるものには限界があり、じっくりと取り組める企画があるといいのではないか。

・利用状況から分析すると出張展示等が充実してくると利用者が増えることが分かった。身近な歴史の自覚ができるような工夫を今後も取り入れていただきたい。そのためのキーワードが連携であり、ＪＲや教育委員会、学校とうまくつながりながら広げてほしい。大仙市との企画は親子で学べるのがうれしい。地域活性化に寄与する子どもの育成に向け、地域の良さを自覚し地域に残りさらに活性化する人材の育成にあきた埋文の存在は大きなポイントになると思う。

・何度もあきた埋文に来ているが、出土した遺物に触れさせてもらえるのがすごくいい。じっと見るだけよりも触らせてもらいながら説明していただけるとよく分かる。子どもたちの発掘現場見学でも分かりやすく説明してもらっている。これからも続けてほしい。

・この３月に学習指導要領が改定になり、関連したところを見てみたが、小学校６年生社会の歴史の中で、新しく「遺跡や文化財、地図や年表等の資料で調べまとめること。」という内容項目が起きている。もちろん、今までも狩猟採集や農耕云々という内容であったがそれとは別項目で新たに付されている。これを学校現場でどのように位置付けるか考え、平成32年には完全実施となる。それまでに各校で試行錯誤すると思われる。そういったところへ積極的に情報提供いただければ利用が高まる可能性がある。もう一つ、内容の取扱いという項目の中に今までも「博物館や郷土資料館等施設の活用を図るとともに身近な地域及び国土の遺跡や文化財等の観察や調査を取り入れるようにすること」という一文があり、さらに「内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図るようにすること」というのが新しく付け加わっている。ここにいらっしゃる方々は専門家なので、そういった方を授業にお呼びすることも内容に則して行われる可能性があるのではないだろうか。先手を打ってＰＲしていくべきである。

・横手市小・中学校教員の社会科研究会に所属しているが、長期休業中に行われる研修会でＰＲする

ことは各学校にパンフレットを配布するよりも効果的ではないだろうか。例えば、ジオラマや体験キットなどを持ってきていただいて、研修会開始前に自由に見てもらい、会の中で５分程度説明してもらうことならば、それぞれの研究団体と相談し可能ではないか。
・出前講座、授業等様々行われているようだが、子どもの生の声を吸い上げ、担当した先生方の感想も集め、リーフレットを作成してはどうか。学校現場では限られた時間の中で、出前授業等をお願いするとなると勇気がいる。これだけ効果があるというのが分かるとやってみようかとなるのではないか。先程の研修内容等とあわせて広報活動もできると考える。
・「このようなことができる。こういうものがある。こういう場所がある。」ということを知らない教職員が多々いるのではないかと思っている。払田柵跡と遺跡調査をしている埋文という施設を一体にとらえ、分けて考えていない人たちには柵のイメージしかない。セカンドスクールの推進を進めていくとすれば、教職員が知ることが先だと思った。そのために何らかのアピールが必要かと思う。子どもたちの学習を考えたときに、展示ディスプレイは遺跡の説明が主になり、旧石器時代や縄文時代ごとの特徴を学習している実態とずれがあるように感じる。その点が解消されると利用が多くなると感じた。解説は読み物が多いようなので、子どもには難しい。子どもたちの視覚に入るキャッチフレーズやキャッチコピーを設ければもっと興味がもてるのではないだろうか。今年行われる「ねんりんピック」で県外からたくさん人が来るので、アピールすることがあれば良いのではないか。また、長期休業中に子どもが来れば大人もついてくるので、長期休業にあわせてもっと働きかけてはどうか。
・案内してくださった職員が楽しそうに生き生きと話してくださる姿を見て専門的な仕事に携わる素晴らしさを感じた。昨年度北秋田市で仕事をしていたが、伊勢堂岱遺跡や大湯ストーンサークル等縄文遺跡群で世界遺産登録を申請されている。しかし、関係者はその価値を知り力を入れているが三内丸山遺跡に比べ鷹巣周辺の地域住民は実に冷やかで、盛り上がりに欠けているように感じる。必要とされるところに出向き出前講座を行うことは素晴らしいことだし、学校現場で学んでいただくことも素晴らしいけれども、施設の性格上必然であり当たり前の方向だと思う。全く興味のない方々にあっと驚くような別のコラボも考えることができないだろうか。例えば、地域の祭りや若者たちが集まるイベントとコラボして新たに興味を示してくれる人が現れれば大きな収穫になるのではないか。これまでの方向性を維持しながら新しい方向性を探ることをお願いしたい。興味のない方に、このようなものがあることや素晴らしい財産だということを知らせ、底部から押し上げていくことが世界遺産登録にもつながると思う。
・あきた埋文があり、払田柵跡が整備された。全国にはたくさんの史跡があるけれども整備を怠っているところもある。ここは、東北・全国の中でも整備された遺跡（城柵）になっている。これを盛り上げていくのは、「柵の案内人ほたるの会」のような地元案内ボランティアの力が必要である。地元の気持ちと活動をいかに全国へ広めていくかとういうことにつながると思う。ほたるの会を一層活発にし、あきた埋文でも後押しをする施策を進めてほしい。
・仮称秋田県立歴史館（以下、歴史館という）を払田柵跡隣接地に設置させたい。この場所は、新幹線の停車駅である大曲駅から比較的近い場所にあり、交通の便が良く、主に県外からの集客を見込むことができる。ここは横手市や仙北市（角館）といった観光地の間にもあたり、横手盆地一帯の文化発信と観光の拠点となりうる。運営は第三セクターに任せ、外付けのレストランがあるとよい。歴史館にはあきた埋文と払田柵跡調査事務所も併設させる。類似する施設としては、県立博物館もあるが、歴史館の展示は考古を含む歴史系に集中・特化させるものとし、科研費の申請のできる研究機関

としての位置づけができればよい。世界遺産（縄文遺跡群）を利用する手もある。

委員からの提言を受けて、様々な立場から御意見をうかがう事の大切さをかみしめた。今回いただいた御意見、御提言は、９月に行う来年度の企画立案に参考にさせていただきたい。できることについては、今年度実施予定の事業に早速反映させていきたい。この後、２回目の協議会は２月に予定されているが、そこで今回いただいた御意見、御提言をもとに作成した来年度の事業や早速取り組んだ事を報告させていただきたい。あわせて新たな御提言も御披露いただきたいと思う。

【第２回】平成30年２月８日（木）

委　員：小松正夫委員長、佐藤厚子副委員長、相場勝也委員、武蔵優紀委員、瀬田川仁委員、竹村尚人委員、髙橋正規委員、山﨑裕子委員、渡部育子委員、伊藤茂昭委員

事務局：櫻田所長、髙橋副所長、半田総務班長（進行）、五十嵐調査班長、大森資料管理活用班長、小徳文化財主査（記録）

会議冒頭の所長挨拶に引き続き、小松委員長の司会により協議が行われた。案件は、（１）平成29年度事業報告、（２）平成30年度事業計画（案）について、（３）平成30年度に向けて委員からの提言であり、各委員からの主な提言は次の通り。

・文化財の利活用について、一か所ではなく、いろいろなところを周遊するやり方が良いのではないか。来年度、大仙市では県との共同プログラムである「花火資料館」の開館を予定している。昨年、仙北市では「田沢湖クニマスの未来館」がオープンした。そういうところとも連携し、ここに来ればおもしろいものがある、おもしろい体験ができると思われるような取り組みやその広報を考えてほしい。仙北地域振興局としては、あきた埋文について、観光素材の一つとして活用できるような紹介をしたいと思う。

・展示を見せていただき、大変すばらしいと感じた。課題は周知や広報だと思う。考古学や遺跡についての知識や興味は人それぞれなので、大いにある人、少しある人、全くない人というふうに、ターゲットを絞って広報した方が効果的だと思う。また、展示を見たり、資料を読んだりするだけでなく、自分たちで考えたり、組み合わせたり、体験したりする活動があった方が、より子どもたちの興味を引くのではないかと思う。

・前回提案（第１回の運営協議会）したことについてすぐ対応してもらい、ありがたく思う。セカンドスクール的利用のＰＲについては、来年度の案内がすでに各学校に届いているので、小中学校の社会科研究会でも引き続き周知して、来年度の計画に生かせるよう働きかけていきたい。

・出前授業の時間だけでなく、その前後の期間にもキット等の貸し出しをすれば、事前・事後の学習や他の学年へのＰＲなどに有効利用できるのではないかと思う。社会科研究会での広報は、時期的には冬の研修会の方が、次年度の計画に反映され易いのでそうしてもらうか、忙しければパンフレット等を頂いてこちらで配ることもできる。学校に配布されるパンフレット類は、個々の教員の目にふれない場合もあるので、今後も研修会での広報をお願いしたい。

・（仮称）県立歴史館構想については二つの意義があると思う。一つは払田柵跡は漆紙文書や木簡が出土する等学術的に非常に貴重な遺跡であり、払田柵跡について学習するためには、それなりの施設が必要だということである。他の都道府県には、学術的に価値の高い遺跡を学習するために公立の歴史館等があるが、秋田にはない。多くの人に払田柵跡について理解してもらうためにも、遺跡の景観が分かるこの場所に歴史館が必要である。もう一つは、アクセスの良さを生かした観光資源としての

価値である。史跡としては、新幹線の駅から比較的近く、近隣地域には他の文化財や夏・冬の伝統行事も多い。そういうところに歴史を学べる施設があれば、多くの人が、場合によっては海外からも訪れる可能性が高い。歴史遺産を核にした地域活性化の拠点づくりのためにも、県と市町村が共同ですすめることを期待する。

・小中学校の「柵の案内人ほたるの会」による払田柵跡のガイドの利用は年々減っている。セカンドスクールで訪れ、埋蔵文化財センターと併せて見学するのだが、ここまで来るバスの手配が難しいとのことである。そういう意味では、これからのセカンドスクールは出前授業の充実が望ましいと言える。今年度の講演会は、テーマにもよると思うが大勢の参加者があり、大変良かった。来年度は払田柵跡についての講演があるそうだが、多くの参加を期待している。

・毎年委員の意見を取り入れて改善していく点は、スピード感もあって大変よい。展示について、説明が展示ケースの中に掲示されており、子どもたちには見にくい。手元で見られる簡単な子ども向けの解説等を用意する等、見やすい工夫をお願いしたい。展示物にあまり詳しくない大人にとっても見やすい解説になると思う。

・セカンドスクール・出前授業をはじめ、様々な充実した事業をありがたく思う。あきた埋文の存在や色々なプログラムについて教職員にＰＲする手立てを、学校としても考えたい。６年生の歴史学習だけでなく、他の学年でもふるさとや地域の学習とどう結びつけていくか、ねらいや目的と整合性を取りながら計画の立て方を話し合いたい。本物に触れたり、自分の生活と結びつけて展示等を見ることができるということは大変大事なことなので、埋文を活用して学習した内容を学校報や学年報で家庭にも伝えていきたい。そうすることにより、保護者や家族へのＰＲにもつながるのではないかと思う。

・事業の広報を行う場合、ＴＶを利用すると大きな効果があるので、ぜひ検討してほしい。あきた埋文は建物が地味で目立たないので、道路沿いにもっと多くの“のぼり”を立てたり、看板を設置したりすると良いのではないか。払田柵跡は有名なので、そちらを利用してアピールできると思う。また、地域のイベントとの共催として、今年度復活した仙北地域の観桜会や大曲の花火大会、彩夏せんぼく（夏祭り）等が考えられる。そういう催しの参加者にＰＲして、こちらへも足を運んでもらえるようにしてほしい。払田には柵親会という地元の団体があり、いろいろなイベントを行っている。いっしょになって、何か古代に関する体験のようなものができないかと思う。

・今年度、大仙市の教員の初任者研修会にセンターを活用させてもらい、ありがたく思う。地域のことを知って、それを授業に生かすなど大変勉強になった。また、本日の資料を見せていただき、職員の意欲的な姿勢が活動を充実させていると感じた。楽しくして行こう、古代と現代をつなげようという工夫が利用者の増加にもつながっているのではないか。学校への出張展示や埋蔵文化財と音楽のコラボなど新しい取り組みも楽しみである。大仙市では、地域活性化に寄与できる子どもの育成を掲げ、「大仙ふるさと博士育成事業」を行っいる。その中で埋蔵文化財センターもアピールされており、ここを訪れる子どももいる。夏休み・冬休みには特集を組んでいるので、キャリア教育との連携という意味でも利用できるのではないか。また、「ふるさと探検マップ」も作成中で、センターも載っている。情報発信の機会として活用してほしい。

・久保田城跡は市指定の史跡で、千秋公園になっている。非常に目立つ場所なので、今後の発掘調査には多くの見学者が来ると思う。そこで、この機会を利用してあきた埋文をＰＲするため、いつでも見学できるコーナーを発掘現場に設けてほしい。一般の方に見てもらうということが、活用・普及にもつながるのではないかと思う。

Ⅴ　平成29年度研修事業

１　研修受け入れ

（１）職場体験

・中学生

実施日：８月９日（水）・10日（木）

研修者：大仙市立仙北中学校２年生２名

・高校生

実施日：①７月26日（水）～28日（金）

②８月１日（火）～３日（木）

③12月25日（月）～27日（水）

研修者：①県立大曲工業高等学校２年生４名

②　　〃　　２年生１名

③県立角館高等学校２年生１名

・大学生

実施日：８月21日（月）～25日（金）

研修者：国立大学法人秋田大学３年生１名

２　職員研修

（１）職員技術研修会

埋蔵文化財発掘調査に関する知識・技術について、発掘調査現場等で実地に研修し、埋蔵文化財担当職員の技術・技能の向上を図ることを趣旨としている。各市町村の埋蔵文化財担当職員の参加を募り、平成29年度は２回開催した。

第１回は、７月28日（金）に払田柵跡調査事務所の協力のもと、史跡払田柵跡を会場として、①「学術調査の方法と応用」、②「測量の基礎」をテーマに実施した。①では、発掘作業中の払田柵跡第151次調査現場にて、遺構断面精査を通じて堆積土の来歴や遺構の性格、広がり等を考察するとともに、周辺環境を類推する活動を行った。学術調査における調査目的の設定と検証のための調査方法、調査成果の解釈と日々の調査方法への反映、限られた調査面積から周辺の状況を判断する思考等について、調査現場を見ながら、活発な議論がなされた。②では、レベルやトランシット、平板を用いた測量の基礎についての実施研修を行った。近年の行政発掘調査では業務委託が一般化しているため、職員自らグリッドの設定等を行う機会が少なくなっており、市町村においては使用した経験が無い職員もいるため、グループごとに、設置の方法から課題を実際に測量して成果品を作るところまで行った。

研修には、当センター職員14名、県教育委員会生涯学習課文化財保護室２名の他、県内市町村の埋蔵文化財担当者３名が参加した。

第２回は、10月27日（金）に中央調査班において、「木製遺物の取り扱いについて」をテーマに実施した。現場での養生や取り上げ後の簡易的な保管方法、さらに保存処理等について、活発な話し合

いが持たれた。秋田城跡歴史資料館の協力を得て有意義な研修となった。

（２）所内研修会

埋蔵文化財センター職員を対象とした所内の研修会として、本年度２回開催した。

第１回は、堤沢山遺跡の鉄関連遺物整理作業に伴い、整理作業の技術的指導を受けるため招聘した、公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部調査課長　吉田秀享氏を講師として、４月19日（水）に実施した。

研修は、「福島県相双地域の古代製鉄技術－操業実験から垣間見えたもの－」と題し、福島県文化振興財団で行われたたたら製鉄の操業実験成果や、遺跡調査部で行われている整理作業の実際について、ＤＶＤ映像等も交えて行われた。

第２回は、年度内４回にわたる石器石材研究に関する資料調査で来所した、群馬県下仁田町自然史館長・明治大学黒曜石研究センター研究員の中村由克氏を講師として、10月12日（木）に実施した。

研修は「石器の石材はおもしろい！－ひとの動きが見える秋田の石器－」と題し、中村氏が近年進めている遺跡出土石器の石材及び産地分析を通じ、当時の人の動きと遠隔地との交流について、石材の顕微鏡観察等も交えて行われた。

今後も機会を得て様々な分野について研修し、職員の知識の幅を広げるとともに柔軟な思考への一助としたい。

（３）防災・避難訓練、交通安全講話【本所・中央調査班】

実施日：平成29年４月27日、12月20日（交通安全講話／中央調査班）

実施日：平成29年５月28日、11月29日（交通安全講話／本所）

実施日：平成29年６月15日、（防災・避難訓練、緊急救命講習／本所）

実施日：平成30年１月23日、（防災・避難訓練／中央調査班）

Ⅵ　職員名簿

職　　名	氏　　名
所長	櫻　田　博　憲
副所長	髙　橋　　学

総 務 班

副主幹（兼）班長	半　田　武　伸
主査	齊　藤　憲　治
主査	武　藤　　靖

調 査 班

主任学芸主事（兼）班長	五十嵐　一　治
(兼)副主幹、(本務　払田柵跡調査事務所)	宇田川　浩　一
学芸主事	山　村　　剛
文化財主査	吉　川　耕太郎
文化財主査	加　藤　朋　夏
文化財主事	巴　　亜　子
文化財主事	赤　星　純　平
文化財主事	小　山　美　紀
文化財主事	安　田　　創

中 央 調 査 班

主任文化財専門員（兼）班長	磯　村　　亨
主査	鈴　木　菜穂子
副主幹	村　上　義　直
学芸主事	武　内　真　之
文化財主査	利　部　　修
文化財主任	山　田　祐　子
文化財主事	冨　樫　那　美
文化財主事	乙　戸　　崇
非常勤職員	泉　　明

資 料 管 理 活 用 班

主任学芸主事（兼）班長	大　森　　浩
学芸主事	工　藤　伸　也
学芸主事	堀　川　昌　英
文化財主査	榮　　一　郎
文化財主査	小　徳　　晶

秋田県埋蔵文化財センター年報36
（平成29年度）
発　　行　平成30年６月
秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802　大仙市払田字牛嶋20番地
電　話（0187）69-3331
ＦＡＸ（0187）69-3330
［URL］http://www.pref.akita.jp/
gakusyu/maibun_hp/index2.htm